

## 平成27年第3回議会定例会（諸般の報告）

開会にあたり、諸般の報告を申し上げます。

はじめに、「白井市行政経営有識者会議委員の就任」について申し上げます。

当該会議の設置につきましては、先の市議会第2回定例会で議決をいただいたところですが、行政経営有識者会議委員には、行政経営などに関連する分野から、第一線でご活躍されている専門家の皆様にご協力いただくこととしました。

白井市の財政状況については、国が示す財政の健全化判断比率の4指標について、いずれも早期健全化判断基準を下回っており、健全な状態であると言えます。

しかしながら、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、90%台を推移し、依然として高い状況であります。

今後の少子高齢化や人口減少、公共施設等の老朽化など重要課題に対応する施策を展開するためには、多少に余力のある今こそが大事な時期と考え、行政経営改革に取り組むものであります。

有識者会議の委員の構成を申し上げますと、事業・施設仕分けの専門家として、構想日本 総括ディレクターの伊藤 伸 氏、地域経済・民間経営の専門家として、株式会社ちばぎん総合研究所 調査副部長 関 寛之 氏、市民協働の専門家として、千葉大学法政経学部准教授の 関谷 昇 氏、地方財政の専門家として、日本大学経済学部教授の 沼尾 波子 氏、公会計の専門家として、公会計研究所代表の吉田 寛 氏以上、5名となります。

委員の皆様には、従来の枠の中だけではなく、今までにはないダイナミ

ックな視点からの提言を期待しています。

私はこの白井で生まれ育ち、常に白井とともに歩んできましたが、白井市は私にとっても、市民の皆様にとっても大切な故郷です。

この大切な故郷を子や孫に健全なまま引き継ぐことが、市長としての私の使命と感じており、将来を見据えた持続可能な行政運営を推進するため、将来に繋がる大胆な行政経営改革に、不退転の決意をもって取り組んでまいります。

次に、「白井市第5次総合計画・前期基本計画（素案）」及び「白井市都市マスタープラン（素案）」の「パブリックコメント実施」について申し上げます。

平成28年度を初年度とする「第5次総合計画」の策定については、これまで、第5次総合計画及び都市マスタープランの策定に係るアンケート調査、勉強会、タウンミーティング及び地区別ワークショップを開催し、市民から多くの意見やアイデアをいただきながら策定作業を進め、市が10年後の目指す姿である将来像や将来都市構造などのまちづくりの基本的方針を定める第5次総合計画の「基本構想」を、先の市議会第2回定例会において「基本構想・基本計画に関する調査特別委員会」での審議を経て、原案のとおり可決いただきました。

この基本構想で定めた将来像の実現に向けたまちづくりの重点戦略に沿って、平成28年度から32年度までの5年間に市が取り組む具体的施策を示した前期基本計画（素案）を策定いたしました。

また、「第5次総合計画」と一緒に策定を進めている「白井市都市マスタープラン」につきましても同様に（素案）を策定いたしました。

それぞれの素案の内容を市民に周知するとともに、素案に対する意見を

広く募集するため、本日からパブリックコメントを実施しております。

実施期間は本日から9月14日月曜日までの14日間です。素案は市のホームページ及び市役所1階情報公開コーナーをはじめ各センターで閲覧することができます。

次に「モンゴル国での梨のPR」について申し上げます。

9月10日及び11日にモンゴル国ウランバートルで開催される千葉銀行主催のビジネスマッチング商談会に白井市梨業組合と西印旛農業協同組合が連携し、参加することとなりました。

本市の主たる基幹産業の農業、とりわけ梨の栽培は、県内トップの生産量を誇る主要な農産物でございます。

市としても「しろいの梨」のさらなるブランド化、農業振興を図るため、市職員2名を派遣いたします。

今後も関係者との関わりを大切にしながら、「しろいの梨」の販路の拡大や、ブランド化に繋げるなど、農業の振興に努めてまいりたいと考えております。

次に「西印旛農業協同組合農産物直売所『やおばあく』移動販売」について申し上げます。

やおばあくが地産地消の推進を目的に、多種多様な季節ごとの旬の地元の新鮮野菜等を市民に届けるため移動販売車による移動販売を実施するにあたり、市から「地域活性化・地域住民等緊急支援交付金」を活用し、車両の購入費を助成いたしました。この移動販売車を活用した移動販売が8月6日から開始されました。

移動販売は、火曜日から金曜日までの週4回、市内15箇所で1箇所あ

たり30分程度の販売を行います。

この事業により、地元農産物の消費拡大と農業の活性化を図るとともに高齢を迎えた市民の利便向上を目指してまいります。

次に「なし坊プレミアム商品券」について申し上げます。

「なし坊プレミアム商品券」につきましては、25,000冊を発行いたしました。往復はがきによる7月1日から14日までの1次販売及び7月22日に実施した2次販売により大きな混乱なく完売いたしました。

8月28日現在、既に発行枚数の約53%にあたる172,889枚、額面1億7,288万9,000円分の商品券が利用されております。

商品券の有効期間である本年12月31日までに、市内で3億2,500万円の消費喚起と市民の生活支援に繋がるものと考えております。

最後に、「ときめきマルシェ」について申し上げます。

この事業は、第5次総合計画の将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」の実現に向けたパイロット事業を検討するために設置した若手職員を中心とする庁内横断的なプロジェクトチームにより立案されたもので、若い世代の定住やにぎわい・交流につながる拠点の創造を目的とし、9月13日、日曜日に西白井駅前広場にて実施を予定しております。

マルシェとはフランス語で「市場」という意味で、フランスでは地元の新鮮な野菜や美味しい食材を手でマルシェで会話や交流を楽しむ習慣があります。

これをヒントに、休日におしゃれ感のある「マルシェ」を開催し、買い物、イベント交流、生産者や出店者、家族や若い世代層同士など、さまざまな交流がコミュニケーションを生み出し、それを楽しみ、心ときめく時

間を過ごすことにより、駅前空間に若いファミリー層が集い、にぎわいが生まれるように、にぎわい・交流する機会や場の創出を目指します。